

埼玉県・さいたま市

鉄道博物館

—鉄道の日常と非日常を味わう—

松田曜子 編集委員

鉄道博物館は2008年10月で開館1周年を迎え、ますます賑わいを見せている。正面入口では巨大なぽっぽや(POPPOYA)像が出迎えてくれた。鉄道博物館というと、私は神田万世橋にあった交通博物館に幼い頃よく連れていらつたことを覚えている。本物の鉄道車両が間近に迫る興奮は大人になっても変わらない。鉄道に関する学習機能も備え、装いも新たにオープンした鉄道博物館は、開館以来2008年11月10日までに200万人を集客する人気博物館となった。

印象的なのは、この博物館の空間だ。来館者は、ヒストリーゾーンに居並ぶ車両とともに、敷地沿いに走る川越線、高崎線を、まるで一つの展示物のように眺められる。鉄道技術の一面は各時代に活躍した輝かしい車両の数々であり、もう一面はわれわれの日常生活を支える社会基盤なのだということを、この空間はごく自然に感じさせてくれる。

案内してくれた博物館の方も土木出身だということでも展示について熱く語ってくださいました。車両、保線といった技術の縦割りをせず、各時代に活躍した車両と、そこで使われた最新技術、道具や時代背景を同時に展示するように工夫しているそうである。この博物館が大宮工場跡に建てられたこともあり、昔の道具が多く残っているらしい。

ラーニングホールでは、鉄道がどうして安全に走れるのか、どうして動くのか、止まるのか、子どもでも直感的に学べるようなさまざまなし

かけが用意されている。たとえば、レールの敷石には、なぜ玉砂利ではなく碎石を敷くのか、自分の手で理由を探ることができる。

私が訪れたのは平日の夕方であったが、親子連れに混じりスーツ姿の男性の姿を多く見かけた。目を輝かせて運転シミュレーターに挑戦している男性も、明日はまたラッシュの電車に乗ってここを通過するのかもしれない。この博物館は日常的に鉄道を利用する大人が、鉄道の非日常に一瞬浸れる場所である。

館内は広く、展示をゆつくり見ていると半日あっても足りないくらいだ。2009年4月6日まで、第3回特別企画展「電車特急50年〜ビジネス特急『こだま』からJR特急まで〜」も開催されている。

Access アクセス

交通 JR大宮駅よりニューシャトル「鉄道博物館駅」下車、徒歩1分
場所 〒330-0852 埼玉県さいたま市大宮区大成町3-47
電話 048-651-0088(代表)
開館 10時～18時(入館は17時半まで)
毎週火曜・年末年始(2008年度)は12月29日～1月1日休
入館料 一般1,000円、小中高生500円、幼児200円
URL <http://www.railway-museum.jp/>

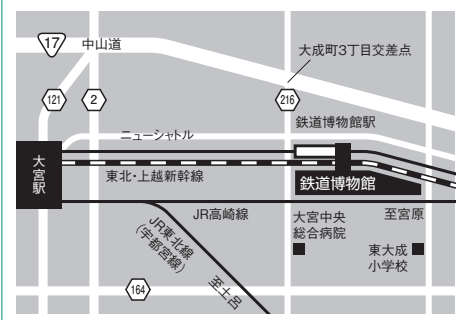




写真1 展望台から新幹線が見下せる建物正面



写真3 SLの前で記念写真に収まる親子



写真2 迫力満点の実物車両



写真6 博物館沿いを走る川越線・高崎線



写真4 わかりやすいラーニングホールの展示

100	200	102	30	10	12	14	
605	627	750	856	1205			
818	640	↓					
627	649	↓					
637	659	↓					
648	710	818	普通車	普通車			
659	721	↓					
709	731	↓					
724	746	845	945	124			
606	634	704	726	747	847	947	12
622	651	↓	↓	↓	↓	↓	↓
635	704	728	750	↓	911	↓	
636	705	729	751	↓	912	↓	
普通車	652	721	745	806	823	☑	1023
普通自由席	653	722	746	807	824	☑	102
707	736	↓	↓	↓	↓	↓	
605	↓	749	↓	↓	↓	↓	普通個室
22	731	806	819	840	↓	↓	連結
35	↓	819	↓	↓	↓	↓	
4	757	838	845	905	917	101	

写真5 時刻表好きにはたまらないエントランスの床